

高等部 第〇学年〇組 自立活動 学習指導案

日 時 〇月〇日 (〇) 〇校時

場 所 高等部〇年〇組教室

指導者 T1〇〇〇〇 T2〇〇〇〇

T3〇〇〇〇 T4〇〇〇〇

T5〇〇〇〇 T6〇〇〇〇

1 題材名 ボタンを探そう～ふたりはともだち (なくしたボタン) より～

2 題材の目標

(1) ボタンを探す場面を模した活動を通して、物を媒介とする教師や友達とのかかわりを深める。

(人間関係の形成) (コミュニケーション)

(2) それぞれができる動きや方法で自発的にボタン探しの活動に取り組む。

(環境の把握) (身体の動き)

3 生徒と題材

(1) 生徒について

本学級は男子3名、女子3名でそれぞれ日常生活全般に介助を要する。特に吸引や経管栄養などの医療的ケアを実施している生徒3名が在籍し、側わんや呼吸状態に応じてこまめな姿勢変換を必要とするなど、様々な場面で健康状態への配慮が必要であることが多い。

コミュニケーション面では、教師の指示をいくつか理解して行動できる生徒もいるが、多くは、快不快を発声や表情で伝え、何らかの形で大人とのかかわりを期待したり、楽しんだりする。また、小集団の学習場面では、教師に注目したり、友達の活動を見たりして参加することができるようになってきている。

昨年度から「学級」の時間では、教師や友達との自発的なかかわりをねらい、絵本の読み聞かせとそれにかかわる体験活動に取り組んできた。皆が好きな読み聞かせや、絵本の一節を利用した歌を一緒に楽しみ、その後、歌に合わせて引っ張ったり、つかんだりという、生徒が自分でできる参加の仕方でも物語の世界を味わった。この積み重ねにより、一人一人が活動を称賛されて喜ぶ姿や、友達の活動を見ながら自分の順番を期待して待ったり、友達の順番を促したりする姿が見られるようになってきた。

(2) 題材について

本題材で取り上げた絵本「ふたりはともだち (なくしたボタン)」は、2人の登場人物を中心にして、会話と簡単な行動でストーリーが展開するので、内容が生徒に伝わりやすい。

物語は、かえるのがまくんがなくした上着のボタンをみんなで探すというものである。「きみのボタンだ」「ぼくのじゃない」という繰り返しの台詞や動作が馴染みやすく、また「ボタンを見つけました」と動物たちが次々現れる展開にも期待をもてる。最後には、拾ったたくさんボタンを飾りとして上着に取り付け、友達に贈る場面があり、「素敵なお着が完成したね」と皆で喜びを共有できる。

このような題材の良さを生かして、視覚・聴覚・触覚など一人一人の感じ方に合わせた工夫をすることで、楽しみながら読み聞かせに参加できるのではないかと考える。さらに、生徒が登場人物になってボタンの受け渡しをする活動は、友達や教師とのかかわりを深めていくことにつながるのではないかと考え、本題材を設定した。

(3) 指導について

指導に当たっては次のような点について配慮する。

- ・生徒個々の実態に合わせて目標を達成できるように、活動場面によって生徒の姿勢を換える。
- ・クラスの友達とのかかわりを意識できるように、生徒の配置や座位姿勢 (いす、あぐらなど) を工夫する。
- ・集団を意識できるように、ボタンを探す順番を決めたり、「〇〇さんの番だから応援してね」等と声を

かけたりする。

- ・絵本の一節を使った歌を繰り返し歌うことで、場面展開に期待をもてるようにする。
- ・視力が弱く、聴覚優位な生徒のために、状況の変化が分かりやすいように、読み手を決めたり、楽器などの効果音や香りのする教材を使用したりする。
- ・急な、賑やかな音が苦手な生徒が、落ち着いて活動に取り組めるように、生徒に楽器を提示したり、拍手の合図をしたりしてから音を出す。

4 本題材における生徒の実態及び目標

生徒	実態	目標
A	<p>教室内では教師や友達の動きを意識しており、教師のはたらきかけには視線を向けたり、「んー」と声を出したりして応えようとする。また、楽しい、好き嫌いなどの意思表示を表情で伝える。</p> <p>読み聞かせを好み、自分の活動の順番を期待して取り組む。提示されたものを見て指先でつかもうとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の活動を見て、自分の順番を意識する。(人間関係の形成・環境の把握) ・自発的にボタンをつかむことができる。(環境の把握・身体の動き)
B	<p>教師とのかかわりや、読み聞かせの活動を好み、始まると拍手をして、声を出して喜ぶ。</p> <p>いくつかの指示が理解でき、四つばいで移動しながら「〇〇さんにタッチ」などを行うことができる。</p> <p>指示通りに活動し「できた、やったー」とほめられることをとても喜びながら、見通しをもって学習に参加している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とボタンの受け渡しをしたりして自分からかかわる。(人間関係の形成) ・お話に合わせた身振りをしたり、相づちを打ったりしながら、参加する。(コミュニケーション)
C	<p>楽しい時は体を揺らしたり、両足を動かしたりする。耳かきなど、自分の要求を教師に伝えるときは自分からかかわろうとする。「～しますか」の問いに挙手で答えることもある。</p> <p>指先でものをつまむことができる。左手で支えながら右手で箱を開けるなど両手を使うことができるものの、片手のみを使うことが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の問いかけに応じてボタンの受け渡しをする。(コミュニケーション) ・両手でふたを開けることができる。(身体の動き)
D	<p>周りを見て、友達や教師がいることを意識し、手を伸ばして友達のタオルに触れることがある。教師が顔を近づけたり触れたり1対1でかかわることを好み、声を出して笑う。集団の賑やかな音が苦手で、耳をふさいだり、泣き出したりすることがある。繰り返して活動することで見通しをもち、驚きが軽減されてきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話をしている教師や提示されるペーパーを見る。(人間関係の形成) ・順番を意識し、自分で手を動かしてボタンを引っ張ってとる。(身体の動き)
E	<p>友達の動きを見たり、教師の話の聞いたりするのを好み、笑顔や発声で楽しさを表す。腕を大きく振ったり、手首を動かしたりして、楽器を鳴らしたり、友達に触れたりすることがある。</p> <p>日によって体調が異なり、苦しそうな表情になることがあり、呼吸が楽にできるような姿勢に配慮している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の順番を意識し、教師の「ボタンどこかな」「ボタン取って」などの言葉かけに応じてボタンに触れようとする。(コミュニケーション)
F	<p>集団の賑やかな人の声や音楽を聞きながら楽しんでいる。嬉しいときは手足をばたばたと動かしたり、顔を上げて声を出したりする。</p> <p>新聞紙などのかさかさするものを両手で引っ張ったり破いたりして、感触を楽しむことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライムの中に入っているボタンの入ったカプセルを探してつかむことができる。(環境の把握)

5 指導計画（総時数36時間）

- ・お話と歌を聞こう …………… 4時間
- ・いろいろなボタンに触れよう …………… 12時間
- ・みんなでボタンを探そう …………… 20時間（本時8時間目）

*高等部には、複数の自立活動学習グループがあり、その中で○学年○組「学級」では、学級の友達への親しみや集団への帰属感を大切に、お互いの活動の様子に気持ちを向けられるような場面設定をしながら、個々の目標にせまっていく時間ととらえている。年間の計画では、「お話」に関する学習の他に、季節の折々の事物や行事を感じる活動、校外学習や宿泊学習等の事前事後学習等の内容が盛り込まれている。全体を通して「人間関係の形成」「コミュニケーション」「環境の把握」「身体の動き」等の力を伸ばすことを前提としているが、「お話」においては特にかかわりの力を伸ばしたり、集団を意識したりできるような場面の設定の工夫に努めている。また、ここでのかかわりとは、人とのかかわりの前段階である物へのかかわり、集団を意識する（友達や教師を見る等）こと、物を媒介としたやりとり等、生徒個々の実態に合わせて広く解釈している。

6 本時の実際

(1) 目標

- ・ボタンを探し、自分で取り出す。

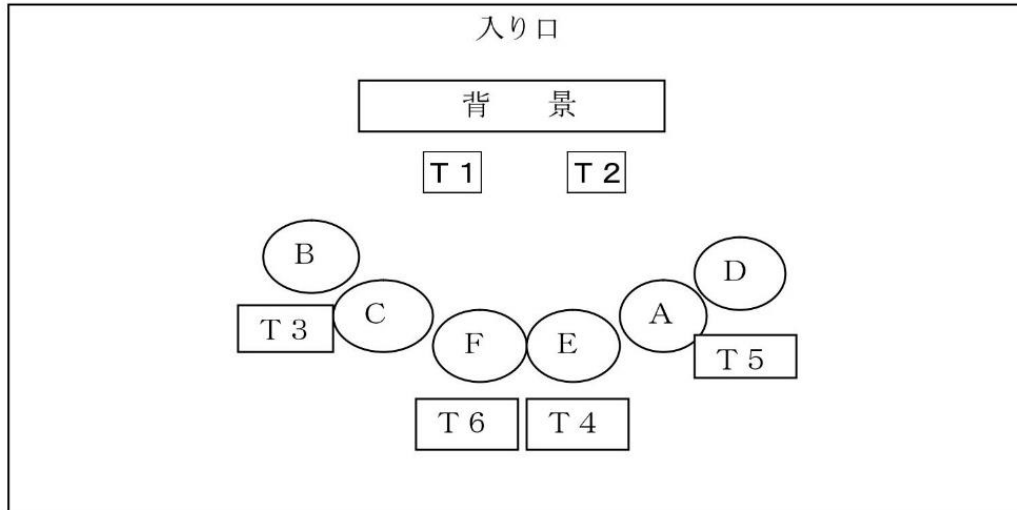
(2) 個別の目標及び評価の視点

生徒	目標	評価の視点
A	・提示されたボタンを見ながら両手を動かしてつかもうとする。	・ボタンを見つけて、自発的に手を伸ばそうとしたか。 ・指先を曲げてボタンをつかもうとすることができたか。
B	・自分でホワイトボードに移動し、ボタンを目視して取ることができる。	・自分の順番が分かり、自発的にホワイトボードまで四つばいで移動することができたか。 ・上方にあるボタンを見つけ、きちんと見ながら取ることができたか。
C	・自分で箱のある場所に移動して、両手を使って蓋を開けることができる。	・自分で箱のある場所を見て移動しようとしたか。 ・両手を使って蓋の取っ手をつかみ、持ち上げることができたか。
D	・教師の言葉がけに応じて、両手を動かしてボタンに触れる。	・提示されたボタンに視線を向けながら手を動かすことができたか。
E	・教師の言葉がけに応じて、上方のボタンに手を伸ばして落とそうとする。	・「ボタン探して」「ボタン取るよ」などの教師の声に表情や発声で応じながら、支えられた手首を自発的に動かしたか。
F	・スライムに手を入れて、中にあるボタンの入ったカプセルを探り取ろうとする。	・ボタンの入った固い感触のカプセルに触れたときに、顔の動きや表情に変化が見られたか。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の主な支援				準備物		
		A (T3)	B (T5)	C (T5)	D (T3)		E (T6)	F (T4)
5	1 始めのあいさつをする。	ペープサートがよく見えるように 身体が傾かないように クッションチェアの左側 に丸めたタオルを入れる。	「はじめます」の所で身 振りができるように、隣 で両手を聞く演示をす る。	・背中を伸ばして座ることができるよう 椅子の座面の奥側にタオルをしく。	・視線を高くし、周囲を見渡 せるようにベンチ座位と し、後ろから教師が密着し て支える。	・上体を起こしてお話が 聞けるようにベンチを 用いる。教師が後方か ら姿勢保持の支援をす る。	ベンチ クッション チェア いす ペープサート ト ウクレレ ヴィブララス ラップ 拍子木 背景 木 森 キューボ モビリア テーブル SRC/W スライム	
10	2 教師の読み聞かせを聞く。	T1：生徒が注目できるように、 T2：ストーリーを分かりやすくしたり、次の活動に対する期待をもったりできるように、繰り返しの台詞の後にヴィブララスラップを鳴らす。	・読み聞かせに集中できる ように「ボタンあるかな」 等と話しかけたり、ペー プサートを指さしたりす る。	・周囲を気にする場合は、 読み聞かせを意識できる ように、T5がタッピング グをしたり、T1の方を指 さしたりする。	・ベンチが見やすいよ うに体幹や首を支え、呼吸状 態に応じて上体の傾きや顎 の位置を調節する。	・期待できるように、「ボ タンないね」等と話し かけたり、歌いかけた りする。		
20	3 ボタン探しをする。	生徒が手を動かして活動したり、友達とかかわったりしやすいうような姿勢に換える。	・四つばいで自力移動しやす いよう床に正座にす る。	・自力移動しやすいうあ ぐら座にする。	・肘で支えながら手を動か しやすいうよう、テーブル を前に置いて長座にす る。	・呼吸を整えながら、自発的な 手の動きを引き出しやすいう よう腹臥位にする。 ・呼吸が苦しそう場合は側臥 位とする。	・自発的に大きく手を動 かすことができるよ うに、 あぐら座にし、後方か ら姿勢保持の支援をす る。	
10	4 T2が着た上着に皆でボタンをはり付ける。	生徒の表情や手の動きを 読み取り、自分で活動す るという意思表示を皆に 伝えるよう、「ボタン見つ けた」「拾うよ」等と代弁 する。 ・腕や指を動かかしやすいう よう、肘を支えるなどの支 援をし、つかみ取ったと きには称賛する。	・生徒の気持ちや皆に伝え るよう「活動したいです か」などと言葉かけをし、 拳手での意思表示を促 す。 ・友達への活動を見やすいよ うに、下を向いている場 合は姿勢を整えて顔を上 げるようにする。 ・両手を使ってボタンを取 り出しやすいうように、箱 を提示する高さを調節す る。	・生徒の気持ちや皆に伝え るよう「活動したいです か」などと言葉かけをし、 拳手での意思表示を促 す。 ・友達への活動を見やすいよ うに、下を向いている場 合は姿勢を整えて顔を上 げるようにする。 ・両手を使ってボタンを取 り出しやすいうように、箱 を提示する高さを調節す る。	・興味をもって自発的に手 を動かすよう、光る教材 を提示する。 ・ボタンに手を触れて取る ことができたら、近づい て称賛する。 ・活動に向かうことができ ないときは、教師が手を 添え、一緒にボタンを取 る。	・手首を動かしてボタンを取 る動きに集中できるよ うに、肩や肘を支える。 ・自分の順番を意識しやすいう ように「ボタン取るよ」と 言葉かけしてから教師が手 を添える。 ・ボタンを引き輪で落とすこ とができれば称賛し、さら に、称賛に対する表情や発 声の心算を十分に待つよう にする。	・自分からスライムの中 に手を入れてカブセル を探すができるよ うに、香りのするスラ イムを準備する。 ・カブセルに触れたとき に、確認できるように 「あった」「握るよ」等 と話しかけながら手 を添えて一緒に取る。	ボタン 上着
5	5 終わりのあいさつをする。	T1：全員がボタンをはり付けたら、完成と活動の終わりを意識できるように、「やったー！すてきなジャケット完成！」と言葉かけをし、歌を歌う。						

(4) 配置図



生徒の姿勢	前半 (読み聞かせ)	後半 (ボタン探し)
A	クッションチェア	SRCウォーカー
B	いす座位	正座
C	いす座位	あぐら座
D	いす座位	長座
E	ベンチ座位 (T5 支援)	腹臥位
F	ベンチ座位 (T4 支援)	あぐら座 (T4 支援) →クッションチェア